

国際大ダム会議第 28 回大会論報文募集案内

国際大ダム会議（ICOLD）第 28 回大会及び第 93 回年次例会が 2025 年 5 月 15 日～5 月 23 日に中国・成都市で開催されます。

大会に提出できる論文の種類は、課題に対する論文（Papers）とそれ以外の自由報文（Communications）の 2 つです。（以下、合わせて「論報文」という）

日本から大会に提出できる課題論文数は 26 編であり、1 課題につき 9 編以内となっています。これらを超過した場合は、日本大ダム会議（JCOLD）より投稿辞退をお願いすることがあります。上記の制限により、JCOLD では、論文査読 WG において第 1 段階として提出論報文の概要を査読いたします。報文については提出数の制限はありませんが、内容の確認のため査読いたします。

論報文提出希望者は下記要領により、論報文の和文概要を事務局に送付してください。

なお、「論報文投稿費（1 ページあたり 48 ユーロ）」および「ICOLD 事務局への送金関係手数料（1 編につき 5,000 円）」は著者・投稿者の負担となります。大会開催後に当会議から請求いたしますのでご留意願います。

大会・年次例会開催日：2025 年 5 月 15 日～5 月 23 日

（大会は期間中の後半 3 日間）

開催場所：中国、成都市

ICOLD 本部への論報文提出期限：2024 年 8 月 31 日

1. 和文概要の作成および提出要領

添付の申込書に必要事項をご記入の上、**2024 年 6 月 12 日（水）**までに JCOLD 干場宛（secretariat@jcold.or.jp）に、E メールにて提出してください。論文 1 編につき 1 つの課題及び副題に投稿できます。報文は当該大会の課題には含まれないテーマで、広く関心のある問題について投稿できます。

和文概要を 1,500 字以内で作成してください。論文内容が大会課題に見合っているか、また論報文が大会提出に適切かつ価値あるものかを査読いたします。

2. 論報文執筆要領

和文概要の査読後に査読用本論文をテンプレートに従って作成し、JCOLD まで提出してください。規定では ICOLD 論文集に印刷した仕上がり状態で、挿入する図面、写真を含み全部で 20 ページ以内かつ 1 頁掲載単語数は文字だけの場合で約 450words となっています。

【添付ファイル】（<https://jcold.or.jp/j/activity/> からダウンロードできます。）

大会論報文申込書（和文）

本論文テンプレート：ICOLD_EasyEdit_Congress Proceedings.dotm

本論文テンプレートの使い方：ICOLD Congress Proceedings EZEdit.pdf



キーワードリスト：CL2014 ANNEX D.pdf

本論文執筆規定（テンプレートの使用が困難な方）：CL2014 ANNEX C.pdf

本論文フォーマット Word 版（テンプレートの使用が困難な方）：ICOLD_Paper.docx

本論文査読の参考資料として、和文の論文または参考資料（形式不問）がある場合は、査読用本論文提出時に併せて送付してください。

3. ICOLD への論報文提出に関する主要日程

和文概要の JCOLD への提出期限	6 月 12 日（水）
和文概要確認結果の著者への通知	6 月 24 日（月）
査読用本論文の JCOLD への提出期限	7 月 24 日（水）
査読・修正・確認期間	7 月 25 日（木）～8 月 29 日（木）
JCOLD から ICOLD 本部へ提出	8 月 30 日（金）

ICOLD 第 28 回大会課題

原文	和訳
Q.108 DAMS AND RESERVOIRS FOR CLIMATE CHANGE ADAPTATION 1. Dams for Pumped Storage: specific features, design, examples of implementation 2. Off-river dams for water storage and flood protection 3. Offshore dams and tidal power plant 4. Dams for recharge of aquifers and other new concepts 5. Floating solar on dam reservoirs – opportunities and risks	課題 108 気候変動に対応するダムと貯水池 1. 揚水発電用貯水のためのダム、固有の特性、設計、実用事例 2. 貯水および洪水緩和のための河道外ダム 3. 沿岸ダムおよび潮汐発電所 4. 帯水層への補給および新たなコンセプトのためのダム 5. 湖上太陽光発電、チャンスとリスク
Q.109 DAMS AND LEVEES FIT FOR THE FUTURE 1. Management of an aging portfolio of dams in terms of operation, maintenance, and rehabilitation, including risk-based approaches 2. Safety during construction and rehabilitation 3. Special case for small dams and levees 4. Impact of contracting practices on dam safety (e.g., private sector involvement, EPC contracts) 5. Increasingly difficult sites and their new challenges 6. Need for global capacity building	課題 109 次世代に適合するダムと堤防 1. 運用、保守と再開発の観点における様々な経年化したダムの管理（リスクベース手法を含む） 2. 建設時および再開発時の安全 3. 小規模ダムおよび堤防の特殊事例 4. ダム安全にかかわる契約方法の影響（たとえば、民間セクターの関与、EPC 契約） 5. 増大する開発困難なサイトとその新しい課題 6. 包括的な能力構築の必要性

<p>Q.110 SAFETY OF DAMS AND LEVEES FACING EXTREME HYDROLOGICAL EVENTS</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Assessment of extreme events (e.g., flood, droughts, typhoons/hurricanes, glacial lake outburst floods) in the context of climate change, accounting for uncertainty 2. Assessment for the safety of structures for extreme floods; management options (e.g., increasing dam height, spillway capacity, reservoir operation) 3. Flood forecasting, hydraulic management of multiple projects within river systems 4. Reassessment of the flood data and mitigation e.g., fuse devices, overflow resistance, controlled breach formation, warning and evacuation, crisis and emergency management 	<p>課題 110 極端水文事象時のダムと堤防の安全</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 極端事象（たとえば、洪水、渇水、台風、氷河湖決壊に起因する洪水）の評価 2. 極端洪水に対する構造物の安全性評価および他の対策（たとえば、ダムかさ上げ、洪水吐容量、貯水池運用） 3. 洪水予測および流域内のダム群に関する水理的管理 4. 洪水データおよび洪水緩和法の再評価、たとえばヒューズ施設、越流抵抗力、制御された決壊、警報や避難、危険・緊急時計画
<p>Q.111 EARTHQUAKE PERFORMANCE AND SAFETY OF DAMS</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Static, seismic and post-seismic monitoring of dams 2. Feedback from earthquake failures, including tailings dams and levees 3. Importance of multiple features of earthquake hazard (e.g., ground shaking, surface fault movements, mass movements) 4. Seismic design and performance criteria for dam structure, reservoir rim and impacted area 5. Earthquake safety evaluation of all types of dams and safety-critical elements (e.g., spillway, low-level outlets) 	<p>課題 111 ダムの地震時の性能と安全</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 常時、地震時および地震後のダム計測 2. 鉱さいおよび堤防の決壊事例を含む地震時の事故事例からの教訓 3. 多様な地震ハザード（たとえば地盤の振動、表層断層のずれ、大規模な変位）の重要性 4. ダム構造物、貯水池周辺部および影響領域における耐震設計と性能基準 5. すべての形式のダムおよび安全性重要な構造物（たとえば洪水吐、底部放流管）の地震時安全性評価

成都大会論報文投稿の流れ

